令和２年度小松市立国府小学校　学校評価1（計画）

めざす児童生徒像

自ら考え行動し、共に伸びる子　―　やさしく　かしこく　たくましく　―

【やさしい子】　対話する力　助け合い認め合う力　自他の良さに気づき伸ばす力
【かしこい子】　自ら考え伝える力　共に課題を解決する力　ふりかえりを生かす力
【たくましい子】　自ら律する力　挑戦する力　粘り強く取り組む力

※児童生徒達結果－教員結果･保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	やかたの校風作り		３つの項目とも肯定的な回答が８０％を超える	①	児童は、相手の立場や思いを考えて言葉を使うことができる（やさしく）		90	82			
				②	児童は、自ら学びに向かっている（かしこく）		84	70			
				③	児童は、自分を伸ばそうと粘り強く努力している（たくましく）		87	65			
				集計							

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目						達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善		①が８０％を超える	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
				②	学校全体で、勤務の効率化を図る取組が進んでいる						

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	③が80%を超える	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。						
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。						
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。						
				集計							
		授業	①が８０％を超える	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。		88				
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。		88				
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表している。		80				
				④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して書いている。		85				
				⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。		91				
				⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。		94				
				集計							
	学力の定着	学力調査	④を達成したクラスが１００％	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。						
				②	学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。						
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）						
				④	国語・算数の単元末テストで８０点以上の児童の割合がクラスで８割以上である。						
				集計							
		家庭学習	①の割合が８５％を超える	①	自分で計画を立てて勉強している（３年以上）		87				
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている						
				集計							

令和２年度小松市立国府小学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導①	〈児童会活動を活発化させ、助け合い、認め合う力を育む〉 【たてわり活動】 ・６年生主体に行い、異学年交流において、助け合いや認め合いの場を設ける。 たてわり活動における各学年の目標を立てる。 ・帯タイムでのたてわり活動だけでなく、休み時間のたてわりでの交流も意図的に取り組むようにする。 【あいさつ】 ・「やかたのあいさつ」を目標に掲げ、挨拶を通して思いやりの心を育む。 ・学期始めには、あたたかい挨拶があふれる学校をつくるために挨拶運動を全校対象に実施する。 ・児童が挨拶の活動を広げられるように、代表議会と学級会をつなげる。 【やかた集会】 ・児童同士でたてわり活動やあいさつ運動の取り組みでの良い点を認め合ったり、伝えたりして、よりよい実践につなげる。		
生徒指導②	〈学年・学級活動を活発化させ、助け合い課題を解決する力を育む〉 ・毎学期始めに「学習の４つのきまり」の取り組みを行い、学習規律を徹底する。安心して学習できる環境を整えることで、共に対話できる学級の雰囲気をつくる。 ・学年ごとに実行委員を立ち上げ、主体的に学年行事を企画運営できるように支援する。 ・学級会では、やかたシートを使い、対話しながら、クラスの課題解決をしたり、活動目標を立てたりする。		
保健健康教育①	＜自分の身体や運動に関心を持てる取り組みを図る＞ ・竹馬、鉄棒、なわとび、タイヤとびのできてほしい技をレベル別に表記し、「名人」を目指す「チャレンジカード」に全校で取り組み、いろいろな運動に親しめるようにする。 ・握力と投力をつける「にぎなげチャレンジ」を導入し、低学年から正しく「にぎる・なげる」力を身につける。 ・取り組み者数100%、名人達成者数120人を目標にする。		
保健健康教育②	〈望ましい生活習慣の定着に向けた指導の充実を図る〉 ・「正しい手の洗い方」を知り、放送で音楽を流したり、保健委員会で呼びかけたりして、手洗いの定着を図る。 ・毎週の清潔チェックを学級担任と連携して行い、清潔習慣の定着を図る。 ・保健だよりや掲示、各クラスへの保健指導等を通して、感染症予防や生活習慣に関する指導を行う。		
特別支援教育	＜支援を必要とする児童に対して組織的な支援を図る＞ ・校内委員会を中心とした組織的な支援体制をつくる。 ・支援の結果を常に見とりその後に生かす。		
道徳教育	〈考え、議論する道徳授業を推進する〉 ・夏季休業中に校内研修会を行い、授業づくりについて学習する。２学期に共通空き時間を利用して授業の様子を交流する。 ・年一回以上、授業参観や学校公開で道徳の授業を公開する。また、１１月学校公開に「道徳ファミリートーク」を行い、家庭との連携を図る。		
読書教育	〈読書量を確保し、読書の質的な向上を図る〉 ・読書オリンピックと多読賞を設け、読書に対する意欲を喚起することで読書習慣を育てる。 ・月1回の貸出冊数データを利用し、学級担任が月1回読書指導を行い、全員月に3冊以上本を借りるようにする。 ・「本のとびら」から選定した、各学年の課題図書4冊を1年間で読了する「読む4」の取組を行い、各学期末毎に学級担任と図書担当が読了状況を確認する。 ・図書担当が働きかけ、図書館司書と連携を図ったり図書委員会が呼びかけたりする取組を通し、質的向上を図る。		
家庭・地域との連携	家庭・地域の力を生かした教育活動の推進 家庭や地域の力を生かした活動を、教育課程に位置付ける。 ・クラブや総合的な学習などで人材を活用する。 ・家庭との双方向の取組を行う。		

学校関係者評価	